

成人看護学実習

目的：急性期、慢性期、回復期にある成人が、早期にその方の元々の生活に戻ることができるように援助するための基礎的看護実践能力を養う。また、終末期にある対象者においては、その方の望む生活を送れるように援助をするための基礎的看護実践能力を養う。

目標

1. 成人期にある対象者の発達段階・発達課題をふまえた上で、対象者の生活および健康を環境との相互作用の観点から理解することができる。
2. 成人の健康行動に対する考え方や対象者の価値観について理解し、個別性に応じた看護を行うことができる。

実習概要

1. 実習施設

- 1)成人看護学実習Ⅰ：TMG あさか医療センター
- 2)成人看護学実習Ⅱ：上福岡総合病院

2. 実習時期：2年次、3年次

3. 実習単位：成人看護学実習Ⅰ 1単位 30時間(1時間＝45分)
成人看護学実習Ⅱ 2単位 90時間(1時間＝45分)

4. 臨地実習受講のための前提条件

科目名	単位取得領域・科目
成人看護学実習Ⅰ	基礎科目、専門基礎科目、成人看護概論、成人看護方法Ⅰ、がん看護学
成人看護学実習Ⅱ	成人看護学実習Ⅰ、成人看護学

*がん看護学の単位が未修得となった場合、成人看護学実習Ⅰも単位未修得となる。

成人看護学実習 I (1 単位 30 時間)

目的：がん患者の診断から終末期までを支える医療と看護師の役割について学ぶ。

目標

1. がん患者の診断と治療の実際を知り、外来での看護師の役割を述べることができる。
2. がんの特殊な治療および緩和ケア病棟での療養環境を知ることができる。
3. がんの治療における多職種連携を知り、看護師の役割を述べるができる。
4. 机上の学習をもとに、学内でのグループワークで追加学習をし、がんの治療について理解を深めることができる。
5. グループワークでの学びを他者にわかりやすく発表し、学びを共有できる。

実習内容

行動目標	内容・方法
1. 机上の学習をもとに、学内でのグループワークで追加学習をし、がんの治療について理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・関連科目(専門基礎分野、成人看護学)の学習内容を復習する。 ・課題テーマについてグループメンバーと協力して追加学習をし、理解を深める。
2. グループワークでの学びを他者にわかりやすく発表し、学びを共有できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの内容をまとめ、他者に伝わるようにプレゼンテーションする。
3. がん患者の治療の実際を知り、外来での看護師の役割を述べるができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学を通し、学んだことを実際に見、治療についてイメージができる。 ・患者の意思決定支援の実際を知る。 ・治療を受けながら社会生活を営む患者への看護の実際を知る。 ・緩和ケアチームの講義を聞き、多職種連携と在宅療養支援、看護師の役割について知る。
4. がんの特殊な治療および緩和ケア病棟での療養環境を知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・無菌病室や緩和ケア病棟を見学する。
5. がんの治療における多職種連携を知り、看護師の役割を述べるができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームの活動と看護師の役割について講義を受ける。 ・施設見学で学んだことをレポートする。

実習日程

1 日目(8 時半～17 時) 学内実習

グループ毎に 1 テーマに沿って調べ学習をする。それぞれ看護の役割についても調べまとめる。

1. がんの診断と告知
2. 外来化学療法
3. 放射線療法
4. 手術療法(術前術後の外来での関わりを含む)
5. 無菌治療室
6. 緩和ケアチーム
7. 緩和ケア病棟設置基準
8. がん患者の在宅療養と連携

*翌日の発表の準備をする。発表形式はパワーポイント、ポスター等自由。他者に理解してもらいやすいかどうかを考えて準備をすること。3 日目の見学実習に持っていけるように、レジュメを作成する。レジュメを作成したら印刷をするため、教員に提出をする。

2 日目(13 時～17 時) 学内実習

13 時～ 調べ学習の発表

3 日目(9 時半～16 時半) 施設見学

実習施設

TMG あさか医療センター

実習日の流れ(外来 外来化学療法室 無菌治療室 緩和ケアチーム・緩和ケア病棟見学)

時間	内容	担当
午前	病院紹介 看護部の概要	看護部長
	検査と診断、告知について 術前術後の外来の看護について 外来で行われている治療について(化学療法) 社会生活の両立への支援	外来師長、がん化学療法看護認定看護師等
	入院治療	病棟師長
午後	緩和ケアチームの活動	緩和ケアチーム看護師
	院内見学	

服装その他

- ・スーツ着用
- ・ナースシューズ持参
- ・髪の毛はネット等使用しまとめる

注意事項

- ・施設内では私語を慎むこと
- ・携帯電話の電源は切る
- ・知り得た情報は漏洩しない

交通機関等

- ・公共交通機関を使う

グループ

- ・当日の指示に従う

4日目(13時～17時) 学内実習

- ・病院見学で学んだことのまとめ
 - 1日目、2日目に調べ学習と発表を行ったが、実際に臨床(施設)での講義を受け見学したことで新たにわかったこと、気づいたこと、考えたことなど学びを記載する。
- ・個人でのワークの終了後、グループ内で学びを共有する。

成人看護学実習Ⅱ

目 的：成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在として幅広く理解し、健康状態に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

- 目 標：1. 成人期にある対象者の生活および健康を、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解することができる。
2. 成人期にある対象者の看護上の課題を把握し、対象の個別性を考えた看護が展開できる。
3. 対象者の価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護を実践できる。
4. 健康状態に応じた看護を実践できる。

行 動 目 標	内 容 ・ 方 法
1. 成人期にある対象者の生活および健康を自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義と追加学習により、発達段階・発達課題を理解する。 ・ 情報収集により、身体的・精神的・社会的・霊的な側面から対象を把握する。 ・ 対象者から、地域や家庭の環境・役割等の生活背景を知り、その方と家族の価値観・生活観を理解する。
2. 成人期にある対象者の看護上の課題を把握し、対象の個別性を考えた看護が展開できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者の情報を基にアセスメントし、全体像を把握する。 ・ 対象者の全体像から健康上の課題を根拠に基づき抽出し、優先順位を決定する。 ・ 個別性のある具体策を立案する。 ・ 立案した計画に基づき援助を実施する。 ・ 実施した援助およびその結果・反応について評価する。 ・ 評価に基づいて再アセスメントし、計画および全体像を追加・修正する。
3. 対象者の価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護を実践できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者の価値観・健康観を共感的に受け止め、尊重して援助する。
4. 健康状態に応じた看護を実践できる。	<p>急性期：手術を受けることや麻酔による心身への影響を踏まえ、早期回復促進に向けて援助する。</p> <p>回復期・慢性期：機能障害や生活制限および障害受容プロセスに応じて援助する。</p> <p>病いとともに生きる対象・家族を理解し、よりよい生活習慣・ライフサイクルの調整に向けて援助する。</p> <p>終末期：全人的苦痛をアセスメントし、症状緩和のための援助をする。</p>

成人看護学実習オリエンテーション

1. 実習場所 : 上福岡総合病院 2B病棟、3A病棟、4A病棟
2. 実習単位 : 2単位(90時間)
3. 実習期間 : 配置表に準ずる
4. 実習時間 : 8:30~17:00
5. 実習方法 : 成人期にある患者を受け持ち、看護計画を立案し援助を行う。
6. 実習準備
 - ・実習初日までに、受け持ち患者の疾患の病態生理、疾患の関連図、検査、治療、看護について学習しておく。
 - ・手術予定の患者の場合は一般的な手術前後の看護計画、術後の看護も含めて学習しておく。
 - ・実習初日には記録一式にインデックスをつけて揃え、実習ファイルに綴じておく。
 - ・行動計画用紙、ケア項目表(グループで1枚)は毎日朝登校時に記載してあるようにする。
7. 実習日程
 - ・前週金曜日に受け持ち患者が決定する。(患者変更や1例以上受け持つ場合がある)

1週目

- 月 : データベース2、病態関連図、成人看護学実習の目標
バイタルサイン測定時の観察内容・留意点
8:30~12:30 病棟実習
病棟オリエンテーション、情報収集、受け持ち患者紹介、バイタルサイン測定、コミュニケーション
13:30~14:00 「成人看護学実習の目標」発表
14:00~17:00 記録整理
不足情報がある場合は、情報収集も行う。
情報収集から翌日の計画を打ち合わせる。
- 火 : 14項目の情報・アセスメント 本日実施予定の援助に関するO-P、C-P、E-P
その日に必要な受け持ち患者への日常生活の援助。不足の情報収集。
治療・処置に対する援助、又は見学。
8:30~12:30 病棟実習
13:30~17:00 情報収集・記録整理
問題の明確化と看護の方向性記録
- 水・木 : 問題の明確化と看護の方向性 本日実施予定のO-P、C-P、E-P
その日に必要な受け持ち患者への日常生活の援助。治療・処置に対する援助または見学。

15:00～15:30 カンファレンス（看護の方向性を話し合う）

*「看護の方向性」の話し合いは、2～3人／日、とする。水曜日には全員問題の明確化と看護の方向性を発表できるように準備する。

15:30～17:00 記録整理

金 : 問題点に対しての看護計画

9:00～16:30 実践活動外学習

学内で教員より記録指導を受ける。2週日月曜日には修正した状態で実習に臨む。

2週目

月～木 : 月一 問題点に対しての看護計画

看護計画に沿って、受け持ち患者への看護を展開する。

8:30～12:30 病棟実習 看護計画に沿って行う。

13:30～17:00 情報収集・記録整理、SOAPの記載と計画の追加・修正

火～木一 各問題点（看護計画）に対するSOAPの記録、計画の修正・追加

8:30～15:00 病棟実習 看護計画に沿って行う。

15:00～15:30 カンファレンス（臨地での実習最終日は14:30～15:30）

金 : 9:00～16:30 実践活動外学習

学内で教員より記録指導を受ける。

8. パンフレットの作成について

急性期、慢性期（回復期）の看護において、各種指導を行う場合にパンフレットを使用することがある。（例えば術前オリエンテーション、退院指導、食事指導、リハビリ指導等）

受け持ち患者にパンフレットを用いて指導を実施する場合は、根拠を持って計画に表し、指導者・教員に申し出てアドバイスを受ける。パンフレットを作成したら速やかに指導者に提出し、指導を受けて内容を修正していく。完成したパンフレットは必ず指導者の印鑑を表紙にもらい、一部提出用にコピーを取る（実習終了後、記録と共に提出する）。

パンフレットによる指導は、必ず指導者（または教員）とともに実施する。学生1人では絶対に実施しない。

9. カンファレンスについて（時間 15:00～15:30 *1週日月曜日は13:30～14:00、2週目木曜日は14:30～15:30）

- ・前日までにカンファレンスのテーマを決定し、朝の行動計画発表時にリーダーが指導者にテーマを伝える。
- ・ケースカンファレンスを行う場合は看護計画について様々な視点から意見交換することで、よりよい看護を考える手立てとすることを旨とする。ケースカンファレンスでの意見や助言を看護計画に反映させる。

カンファレンステーマは受け持ち患者のテーマであげることがもちろん、その患者か

ら発展して考えたテーマや追加学習の発表も行える。

- ・カンファレンスノートに意見やアドバイスを書記が記入する。指導者不在のカンファレンスの場合には書記はレポート用紙にカンファレンス内容を記載し、翌日指導者に提出する。

1 週目

月 : テーマ①「成人看護学実習の目標」発表。(自己評価表に事前に記入)

テーマ②「受け持ち患者とのコミュニケーションで感じたこと」

火 : カンファレンスは行わない。

水・木 : テーマ「看護の方向性について」

*発表者の資料は教員がコピーする。

*発表者は全体像を基に問題点と優先順位、それに対して“考えている看護”を発表し、意見交換し助言を受ける。

2 週目

月～水 : テーマはメンバーで決める。

ケースカンファレンスを行う場合、発表者は、看護計画で、援助を実施している中での悩みや上手くいかないと感じている事、意見を聞きたいと思う事を問題提起する。

受け持ち患者から発展したテーマを選択する場合、各自そのテーマについて学習したうえで発表を行い、学びを深める機会とする。

木 : 最終カンファレンス 「2 週間の振り返り、自己評価」(14 : 30～15 : 30)

- *「看護の方向性」は、受け持ち患者の状況によって、行う日が予定と異なる場合もある。カンファレンスのためにコピーした記録は教員が回収する。

10. 最終カンファレンスについて (時間 14 : 30～15 : 30)

- ①受け持ち患者の看護計画、看護の実際と結果について述べる。
 - ②3 週間の実習の中で、出来たこと(努力した点)と出来なかったこと(不十分だった点)を述べる。
 - ③自己の目標に対し、どの程度達成出来たか、評価について述べる。
 - ④成人看護学実習で学んだこと、自己の課題について述べる。
- *自分の看護記録をもとに発表する。まとめたものを読み上げるのは不可。

11. 記録について

- ・行動計画(行動目標): 何のためにその援助を行うのか、目的を明確にする。
計画立案後は必ず計画とのつながりがある内容であること。
何の援助で何を行う(声掛けする)ことで患者にどのようになっ
て欲しいかを意識し目標を立てる。
- ・データベース 2: 受け持ち時点での患者の主な経過・状態、内服薬が分かるように記入する。手術患者では、術式・ドレーン挿入部位、術後経過が分かる

ように記入する。

- ・ SOAP：看護計画立案後、毎日それぞれの計画に関し SOAP で評価する。
 - ・ 看護要約：実習終了後、記録提出までに書く。但し、受け持ち患者を 2 例もつ場合は、1 例目の受け持ち終了後、翌日までに書く。
 - ・ 自己評価：「成人看護学実習の目標」を実習初日に書いてあること。実習終了後「自己評価」を書く。
 - ・ 機能別実習レポート：受け持ち患者が不在の場合に、事前に記入し実習に臨む。
機能別であっても、行動計画も書く。
 - ・ ケア項目表：学生が受け持ち患者に対して実施する援助を指導者ならびに病棟スタッフが把握できるようにするものである。前日にグループメンバーで援助について確認し合い、ケア項目表に記入する。なるべく同時間に援助が重ならないようにし、清潔援助等はメンバー同士で協力し合えるように話し合っておく。
- * 計画立案前の援助については、事前に計画用紙に実施手順・留意点・観察内容を記入し、臨む。1 週目の援助項目の追加、修正は 14 項目で行う。2 週目以降は SOAP で評価し追加・修正する。
- ・ 記録提出について
実習記録の一番上には「出欠席表」、「評価表」を綴じる。
実習記録の 1. ～12. を、その順番で指定のファイルに綴じる。
課題レポート、作成したパンフレット等は、その後にクリアポケットに入れて綴じる。
提出中の記録があれば、その旨を付箋に書いて添える。

12. 課題提出について

受け持ち患者の疾患や看護に関して、指導者から課題を出される場合がある。
課題は速やかに A4 レポート用紙にまとめ、原則として翌日朝に自ら指導者に提出する。

13. 円滑な臨地実習のために予習・復習することが望まれる項目(疾患と看護は実習が予定されている病棟に合わせ学習を深める)。事前学習としての提出は不要。

1) 成人期の特徴 — 成人の理解と看護

2) 経過に基づく看護 (各期の特徴と患者への援助)

・ 急性期 ・ 慢性期 ・ リハビリ期 ・ 終末期

3) 手術療法と看護

・ 手術侵襲と生体反応

・ 手術前患者の看護 (術前オリエンテーション、心理・全身状態を整える、前日・当日の看護)

・ 手術後患者の看護 (術後合併症とその予防・援助、術後の観察・アセスメント、ドレーン管理、創傷治癒の過程と看護、早期離床の促進)

- ・麻酔法（全身麻酔、脊髄クモ膜下麻酔、硬膜外麻酔）
- ・体液・栄養管理（周手術期の輸液管理、外科手術における栄養管理）

4) 疾患と看護（疾患に関わる解剖生理、症状・治療・検査、看護についてまとめる）

- ・胃がん手術患者の看護
- ・大腸がん手術患者の看護（人工肛門造設に伴う援助を含む）
- ・胆石症患者の看護（胆嚢摘出術を受ける患者の看護）
- ・肝がん患者の看護
- ・鼠径ヘルニア手術患者の看護
- ・乳がん(乳房切除術)患者の看護
- ・甲状腺がんで手術を受ける患者の看護
- ・大腿骨頸部骨折患者の看護
- ・心不全患者の看護
- ・腎不全患者の看護（透析療法を含む）
- ・肺炎患者の看護（誤嚥性肺炎を含む）
- ・COPD 患者の看護
- ・糖尿病患者の看護
- ・食欲不振、脱水、発熱、貧血（など症状の原因・看護）

5) 治療法について

- ・内視鏡下手術（腹腔鏡下手術）を受ける患者の看護
- ・輸液療法を受ける患者の看護
- ・化学療法を受ける患者の看護

＜参考テキスト＞「臨床看護総論」「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「解剖生理学」「周手術期看護」、「プチナース 周術期看護ぜんぶガイド」、その他成人看護学のテキスト

14. その他

- ・ベッドサイドケアは、その日の行動計画を指導者に報告、指導を受けた後に開始する。
- ・ケアの前後は、必ず指導者・教員に報告を行う。観察事項や援助内容について報告の遅れやもれがないようにする。（指導者不在でもチームリーダー、担当看護師に報告する）
- ・臨床で指導者に指導を受けた場合や受け持ち患者のケア等での問題が生じた場合、物品等の破損があった時は、速やかに報告する。
- ・グループのメンバー間で声を掛け合い、援助が速やかに実施出来る様、協力すること。